

# 平安時代コーナー資料



写真1 金堀沢遺跡発掘の様子

## 「今、蘇る六ヶ所村の平安時代」

### 1 六ヶ所村の平安時代の遺跡の概要と主な出土遺物

(1) 家ノ前遺跡：9世紀後半から10世紀前半。竪穴住居11軒、土坑1基。地下式カマドと5軒は中央に地下炉。4軒焼失家屋。製塩土器出土。製塩を行っていた可能性がある。



写真2 製塩土器

(2) 弥栄平(4)遺跡：10世紀前半。竪穴住居21軒。17号竪穴住居跡は21㎡。竪穴遺構2基。焼土遺構2基。カマドの煙道が、トンネル式から半地下式に作り替えられた。土師器、須恵器、鉄製品、砥石が出土。鉄製品に刀子、鋤鋏先、穂摘具様鉄製品、紡錘車、錫杖(しゃくじょう)状鉄製品等。稲作か雑穀の栽培か。



写真3 錫杖状鉄製品

(3) 沖附(1)遺跡：10世紀。大きく3カ所からなり、西側から、21軒、7軒、9軒の竪穴住居。土師器、須恵器、灰釉陶器、土製支脚、鉄製品等。甕が多い。鉄製品は、刀子、紡錘車が多い。直刀、鐔(つば)、鋤鋏先、鑿(のみ)、槍鉋(そうほう：やりかん)、手斧、砥石。羽口と鉄滓(てっさい)。木工にかかわる人々が居住か。灰釉陶器は転用硯として使用で、文字を書く人が住んでいたか。

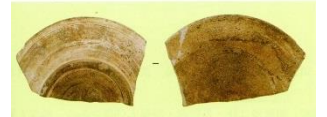


写真4 灰釉陶器

(4) 上尾駁(2)遺跡：9世紀末葉から10世紀前半。B地区から竪穴住居24軒、竪穴遺構1基、鍛冶場遺構1基、A地区から土器埋設遺構1基。土師器、須恵器、製塩土器、土製品、鉄製品、石製品等。羽口、土製支脚、勾玉と丸玉(祭祀用)。鉄製品28点。金槌400gで楔が打ち込まれていて、全国的に出土例が少ない。鍛冶場遺構を伴う集落遺跡。鍛冶集団が住んでいたか。

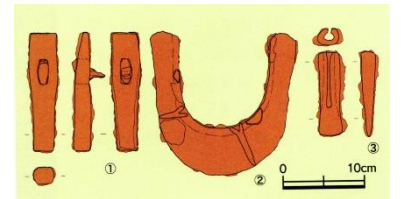


図1 ①金槌 ②鋤先 ③

(5) 発茶沢(1)遺跡：旧石器～平安時代の複合遺跡。9世紀から10世紀後半。西側は、竪穴住居6軒、土坑6基、焼土遺構9基。東側は、竪穴住居51軒、掘立柱建物跡11棟(燻蒸施設か厩の機能が考えられる)、土坑66基、焼土遺構23基、調査区域外にも窪みが多数。大規模集落。土師器、須恵器、製塩土器、砥石、土製品、鉄製品。棒状鉄製品が出土。刀子が作られていた半製品と考えられる。また、早熟な小粒種の炭化米が出土。厳しい自然環境に適した稲作や馬を飼っていたか。

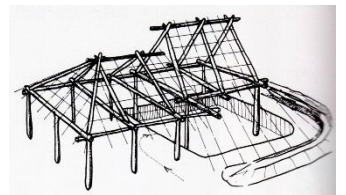


図2 掘立柱建物復元想像図

(6) 金堀沢遺跡：10世紀後半。竪穴住居跡7軒。窪地として確認。平成2年に中学校建設に伴って試掘を行う。縄文から平安時代の遺跡と確認し、別の場所に中学校を建設。2014年8月から東海大学文学部松本建速教授の指導で、平安時代の竪穴住居跡を発掘調査。土師器：ロクロ成型1点、非ロクロ95点、須恵器2点、鉄製品：刀子1点(以上試掘発掘時出土)



写真5 発掘の様子

## 2 各遺跡の営まれた期間と北東北・六ヶ所村に関わる年表

遺跡名	9世紀					10世紀				
	初葉	前葉	中葉	後葉	末葉	初葉	前葉	中葉	後葉	末葉
家ノ前遺跡				■	■	■	■	■		
上尾駁(2)遺跡					■	■	■	■		
弥栄平(4)遺跡						■	■	■		
沖附(1)遺跡						■	■	■	■	■
発茶沢(1)遺跡							■	■	■	
金堀沢遺跡									■	■
718	787	815		861	878	879	915	946~947	950~	
出羽・渡嶋の蝦夷・、「続日本紀」	陸奥・出羽からの馬買い禁止令	陸奥・出羽からの馬買い禁止令		陸奥・出羽からの馬買い禁止令	元慶の乱：蝦夷が秋田城を焼き討ち	出羽国の住民が奥地に逃亡 「日本三代実録」	十和田a噴火・火山灰降下	白頭山火山灰降下	10世紀中葉以降、黒ボク土が堆積	

※十和田a噴火：915年(延喜15年)に大噴火。過去2000年間で最大規模の噴火。

※白頭山火山灰降下：946~947年。中朝国境にある山(2,744m)10世紀前半に過去2000年間で世界最大級とも言われる巨大噴火を起こし、その火山灰は偏西風に乗って日本の東北地方にも降り注いだ。

※類聚三代格(るいじゅさんだいきゃく)は、平安時代に書かれた法令集。

## 3 主な出土物や語彙について

(1) 石帯(白玉帯) 表館遺跡II区から出土(県教委：昭和47年6月~7月試掘調査)

「三位または四位の参議以上が、許された白玉帯と考えられます。」「表館の人物が、国司や鎮守府将軍を通して京へ上り、そこで貴族から白玉帯を賜与されたのかもしれない。」(埼玉県埋文 田中広明氏「尾駁の駒・牧の背景を探る」本文より抜粋)



写真6 平安京作の石帯  
(青森県埋文センター提供)

(2) 灰釉陶器：植物を焼いて灰を水に溶いて作った釉薬(ゆうやく)をかけて焼いた土器のこと。

主に奈良・平安時代の役所やお寺で使用。国内最初の陶器で、転用硯としても使用。

(3) 掘立柱竪穴住居：竪穴住居跡と掘立柱建物跡が組み合わされた構造の建物で、掘立柱建物はカマド側にあり、煙道をおおうような形で建てられた。作業空間か馬小屋か、燻製場か。

(4) 製塩土器：塩を製造・運搬するための土器。海辺で濃くした海水を煮詰めたり、製塩土器に入れて運んだりしていた。こわして塩を取り出していた。塩は、馬も大量消費する。

(5) 黒ボク土：黒くボクボクしている土。長期にわたる野焼きによって堆積。黒ボク土と牧の分布が類似。馬飼を示す。

(6) 錫杖状鉄製品：仏教の錫杖に似た道具。ロシア・朝鮮・中国大陸でも広く宗教儀式に使用。